

北海道情報大学 広報誌 となかまど

2016 (H28) 年 7 月 20 日発行

VOL
66

- 建学の理念・使命・教育目的
- 学長に何でも聞いてちょう!
- 平成28年度 入学式
- 平成28年度 保護者の会役員会
- 春の食改善運動「ワンコイン朝食」
- 体育祭
- 新任の先生の紹介コーナー
- ミステリー×大学 公開セミナー
- フィンランド紀行
- ゼミ紹介
- 先生ってこんな研究してるんだ!!
- 留学生の日本語弁論大会
- この先生の裏の顔
- サークル紹介 手話サークル
- 学生の叫び「この夏休みに頑張りたいこと」
- 学校法人 電子開発学園 平成27年度決算
- 大学主要行事など〈3月1日～6月30日〉
- ななかまど編集隊



北海道情報大学広報誌 ななかまど

2016 (H28) 年 7 月 20 日

CONTENTS — もくじ

VOL. 66

01	表紙
02	目次 北海道情報大学紀要 27-2
03	建学の理念・使命・教育目的
04-05	学長に何でも聞いてちょう！ 第4回 学長と学生の対談
06-07	平成28年度 入学式挙行
08	平成28年度 保護者の会役員会実施
09	江別4大学共同企画 春の食改善運動「ワンコイン朝食」実施
10-11	体育祭報告 学生実行委員会 委員長 鈴木健太
12-16	新任の先生の紹介コーナー 経営情報学部 教授 小走安則、准教授 福沢康弘、医療情報学部 准教授 清水芳行 情報メディア学部 准教授 五浦哲也、助教 宮西和機
17	ミステリー×大学 公開セミナー開催 先端経営学科 准教授 松本紗矢子
18-19	フィンランド紀行 情報メディア学科 教授 埴田尚彦
20-21	ゼミ紹介 医療情報学科 齋藤静司ゼミ システム情報学科 若松ゼミ 情報メディア学科 新井山ゼミ
22	先生ってこんな研究してるんだ!! 情報メディア学科 教授 向田 茂
23	第7回 留学生の日本語弁論大会を終えて 大会審査委員 竹内典彦
24	この先生の裏の顔 先端経営学科 准教授 松本紗矢子
25	サークル紹介 手話サークル
26	学生の叫び「この夏休みに頑張りたいこと」
27-29	学校法人 電子開発学園 平成27年度決算
30-31	大学主要行事など〈3月1日～6月30日〉
32	ななかまど編集隊 Vol.66

北海道情報大学 紀要 27-2

北海道情報大学紀要（英：Memoirs of Hokkaido Information University）は、北海道情報大学が定期的に発行する学術雑誌です。紀要発行の意義は、研究発表の場を確保することにあります。年2回紀要を発行しており、内容は、論文のほか、解説、研究ノート、報告などを掲載しています。本学の教員が研究者として日常取り組んでいる研究テーマをここに掲載いたします。また、内容をご覧になりたい方は、ウェブサイトでご覧いただけますので、右記の URL からご覧ください。

《 論 文 》

- 教科を通じたキャリア教育に関する研究
— 高校数学における教育実践のために —
椿 達
- Information-Theoretic Document
Clustering using Skew Divergence
内山 俊郎
- A Learning Analytics Approach to
Improving Learning Outcomes Using
Tablets as e-book Readers
ソーラ・サイモン 廣奥 暢 奥山 尚史
- 大学生の日本語文章力向上を目的とした
提出文章の要改善箇所指摘システム
三浦 智美 中島 潤
- 集合間の距離に基づく重み付きカーネル
k-平均法のパラメータ探索法 柳 信一

《 研究ノート 》

- The roles of English as a lingua franca in a
short-term ICT task-based Japan-Thailand
exchange program Joel P. Rian

- 北海道情報大学生の高血圧の現状および
特徴についての検討
佐藤 浩樹 佐藤 祐二 西平 順
- 患者視点に立った北海道の医療機関のセ
カンドピニオンに関する調査
船越 幻夢 高橋 文
- 高校数学の微積分の実践としての Kepler
の法則の証明 松井 伸也
- 作図問題と Galois 理論に関する教材作成
の試み 林 雄一郎
- セレンディピティを体験させることを意図
したアプリケーションの開発
齋藤 一新谷 渚

《 資 料 》

- デジタルカメラにおける各種パラメータ
の相互関係 カメラの振動と大判カメラに
ついて 守 啓祐

《 報 告 》

- プロジェクトを通じたグローバル人材育成
の試み 竹内 典彦 サイモン・ソーラ
三浦 洋 川上 正博 安田 光孝



http://www.do-johodai.ac.jp/kiyou/kiyou_27_2.html

建学の理念・使命・教育目的

建学の理念

「情報化社会の新しい大学と学問の創造」

北海道情報大学は、平成元年に我が国の情報化社会の黎明期に情報教育の新しい扉を拓いた、学園創立者松尾三郎博士によって、「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を建学の理念として開学した大学です。

本学の使命・目標

IT社会の到来を告げる国際情報化の幕開けに先駆け、「情報」を大学名に取り入れて開学した北海道情報大学は、「産学協同の精神の下、豊かな国際性、創造力ある人間性を涵養し、実学に裏付けられた実践的な専門教育を通して、我が国の国際情報通信社会の進展に貢献する高度情報通信技術者を育成する」ことを使命としています。

本学は、北海道開拓のシンボル・野幌原生林の豊かな自然につつまれたキャンパスを研究・教育の創造的なふれあいの場として、あるいは先端的な通信教育により全国に展開されている学びの場において、「情報」を核にその応用範囲を広げていく「情報の総合大学」としてIT社会の発展に寄与するために、以下のような機能を果たすことを目標としています。

- ・ 情報を核とする高度な専門職業人養成機能
- ・ 国際性と豊かな人間性を育む教養教育機能
- ・ 情報に関する通信教育の拠点機能
- ・ 地域貢献・産学連携機能

教育目的

21世紀において、われわれを取り巻くすべての社会構造は今やIT抜きでは成り立ちません。このような状況に鑑み、本学の教育では、明日の高度情報通信社会の担い手にふさわしい情報技術と知識、およびそれを支える幅広い教養と各種専門分野にまたがる知識の習得に裏打ちされた高度IT技術者を育成することを目標に掲げています。また、国際情報化に適応できる国際性豊かな人材、情報に付加価値を生み出す幅広い教養、感受性、モラル、コミュニケーション能力を備えた人間力に優れた人材を育成することを目指しています。

- ・ 生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力を育成する自己啓発教育
- ・ IT社会に役立つ高度な情報技術と専門知識を身につける実践教育
- ・ 国際感覚やモラルなど豊かな人間性を養う人格教育
- ・ コミュニケーションとプレゼンテーション能力を涵養する自己表現啓発教育
- ・ 自ら問題を見つけ出し、その解決のために自身で工夫できる問題発見・解決能力育成教育
- ・ 知識のみではなく生きるための知恵を啓発する全人教育

学長に何でも聞いちゃおう！も第4回目となりました。パチパチ。6月22日、お昼休みを使い、今回も学長室で富士学長と6人の各学部の学生で座談会を行いました。メンバーも新規で揃え、初めての学長室に緊張する人も…。短い時間でしたが楽しく、充実した内容の会でした。

今回参加した学生



情報メディア学部
情報メディア学科4年
山浦 征人



情報メディア学部
情報メディア学科4年
堀越 麻希



情報メディア学部
情報メディア学科3年
敦賀 琴里



経営情報学部
先端経営学科 3年
嶋倉 健悟



医療情報学部
医療情報学科4年
菅原 みづき



医療情報学部
医療情報学科4年
和田 桃佳

まずは軽い雑談 笑

山浦「これから第4回、学長に何でも聞いちゃおう!を始めたいと思います。とりあえず、雑談から行きましょう 笑。」

学長「今回のメンバーの人は？」

山浦「ゼミや友達づてで集めました。」

学長「今日はね。楽しみにしてたんだよ。学生と身近に話せる良い機会だからね。初めて会う学生もいるから。」

嶋倉「今日はよろしくお願ひします。本日は堀越さんに強制連行されて来ました!」

全員「笑。」

学長「嶋倉君は今何年生？」

嶋倉「5年目、3年生です。」

全員「?????」

嶋倉「2年間、海外を放浪してたんです。フィリピンやカナダ、オーストラリアなど。」

学長「若いうちから色々経験することは良いことだね。」

菅原「英語で自己紹介して!」

嶋倉「よく言われるけど、いきなり言われると困る。(結局、自己紹介しました。)

“My name is Kengo Simakura. I’m from Japan. I’m university student in Japan, so I’m from HOKKAIDO information university. My major is

before computer programming. But I have a headache that I changing major, now my major economics. anyway nice to meet you.”(翻訳は各自でお願いします。)

健康に気をつけていること

山浦「では、そろそろ質問コーナーに入ります。学長に質問ある方どうぞ!」

和田「はい。私は去年病気になって健康に気をつけるようになったのですが、学長は健康に気をつけていることはありますか。」

学長「私はfitbitを着けて自分の運動量、消費カロリー、睡眠時間を管理しているね。それとは別に毎朝、血圧と脈拍も

測っているよ。それをiphoneのアプリに連動させて1週間の健康チェック

を行っている。チェックをすると自分が何を食べているか。運動しているか、が目に見えてくるからすごいよ。」

菅原「運動はどのようなことをするんで

すか。」
学長「夏は、ゴルフをするね。でも北海道は冬に雪が降ってしまうからインドアになってしまう。そこで、私の場合、“Ballroom Dance”をするよ。」

和田「“Ballroom Dance”とは何ですか。」

学長「日本語で、社交ダンスのことだよ。」
全員「あ———!」

学長「でも、私の場合は競技向けのダンスで格闘技に近い激しいダンスをするよ。今は週に1回、元北海道チャンピオンの先生に教わっているんだ。」

菅原「アクティブ!」

学長「私は、気に入った音楽がかかると体が勝手に動くんだ。」

全員「すごい!」

学長「健康ついでに、大学も学生の健康を考えて教育に組み込むことにしたんだ。生活習慣病や熊本の震災の時の様なエコノミークラス症候群などは予防することが大切。そこで、“ヘルスリテラシー”が重要になる。今年度の後期から新たにヘルスリテラシー教育として講義を導入するんだ。それは“新しい学問を創造し実践する”と言う本学の建学理念にも沿っているから。」

全員「深いっ!」



グローバル人材とは

嶋倉「次の質問です。大学に限らず経済も、日本は今、落ち込んでいる。そんな時だからこそ、グローバル人材を育成して立て直さないといけないと思います。そこで、学長にとっての“グローバル人材とは何か。”を教えてください。」

学長「本学はまさにそこに焦点を当てている。とても良い質問だね。一言で言えば主体性(※)。それがあつる人は大学や社会、北海道、東京、海外と、どこでも通用する。主体性を持っている人こそが私の言うグローバル人材だよ。」

嶋倉「とても参考になります。」

学長「教える立場からすると気をつけていることがある。それは、講義をする時、身近な事例でもいいから最初に学生の“attention”を引き付けるにはどうしたらいいか、を考えて講義を組み立てること。そうすると通常より楽しい講義になることが多い。」

山浦「確かに、いきなり文法や単語、難しい話をされると寝てしまいます。笑」

学長「今、新しい動きとして小学校のプログラミングの授業があるのは知ってるかな。」

堀越「聞いたことはあります。」

学長「プログラミングとだけ聞くとつまらない、難しいと思うかもしれない。だけど、小学生でもできるscratchジュニアと言うビジュアルプログラミング言語がある。色や形で視覚的に区分されていて構文や文法を知らなくても既存のブロックを積み上げていけば画面のキャラクターの動きにダイレクトに反映される。興味があるなら一度やってみてほしい。」

全員「「やってみます。」」

※《主体性については“ななかまど64号”、学長に何でも聞いちゃおう!Vol.2参照。》

日本の社会問題

敦賀「私は今、社会学でホームレスについて学んでいます。そこで、職場をリストラされた人々を救うには日本はどのような対策をすればよいか。学長の意見を教えてください。」

学長「難しい質問だね。今、日本に限らずアメリカなどでも問題になっている。理想は“頑張つた人が報われる社会”だけど、今は中間層の人間がいなくなつてきている。社会全体の構造を変えていかなければならない。人間の幸せは利益や経済だけが全てではない。それを問い直す機会が“3.11”(東日本大震災)であり、良い警鐘だつたと思う。以前から規制緩和を国が行っているが、やりすぎると弱者が救われぬ。社会構造を今一度変える必要があると私は思うよ。」

敦賀「ありがとうございます。社会全体で支えて行く必要がありますよね。」

学長「学びながら働いてステップアップできる環境がほしいね。」

普段着について

堀越「私は服が好きなので質問です。学長は普段どんな服を着るんですか。」

山浦「いきなり軽い質問に笑。」

学長「私服は……」

堀越「パンツにシャツですか。」

学長「そうだね。」

菅原「好きな服の色は!？」

学長「ブルーかな。」

菅原「今日も青ですよ。」

堀越「ブランドはどこが好きですか。」

学長「ジャケットをよく買うけど、イギリスのオースティン・リードかな。よく衝動買いをするね。」

全員「衝動買い!!」

学長「お店に入ってこれがいいと手に取つた服が同じブランドのことが多い。やっぱり、無意識に選んでもあまり変わらない。」

堀越「わかります!」

山浦「今回、ななかまどに学長の私服姿を載せたいのですが…笑。」

学長「あまり、自分の写真は撮らないからあるかな。」

山浦「そこをなんとかお願いします。」

戴きました。→

今回も短い時間の中で内容

の濃い座談会ができました。次回も企画しますので興味のある方は参加しませんか? 〈編集・デザイン 山浦征人〉



to be continue..?

入学式

入学式 挙行

4月6日(水)午前10時から、本学松尾記念館講堂において、平成28年度北海道情報大学入学式を挙行了しました。

式の模様は、式場に設置されたテレビカメラにより、保護者室(211教室、212教室、213教室)と全国にある通信教育部の各教育センターにも生中継され、多くの保護者や教職員に見守られるなか、約900名の新入生が、北海道情報大学生としてスタートしました。

会場内の保護者席は、座席数の関係もあり多くは用意できませんでしたが、厳粛なうちにも和やかな雰囲気のなか行われました。

式の中では、入学生代表として田中結衣さん(情報メディア学科)が、これからの学生生活の抱負について宣誓しました。

式終了後には、入学生と保護者に対して、建学の理念及び本学の開学に至った経緯等について知っていただくためのビデオ上映を行い、その後は、学科・専攻ごとに分かれて場所を教室に移し、入学生・保護者・クラス担任の顔合わせを兼ねた学科別等ミーティングが行われました。(総務課)



↑宣誓を学長に手渡す入学生代表の田中結衣さん

- 一、修礼
- 一、開式の辞
- 一、学長告辞
- 一、理事長祝辞
- 一、祝辞・祝電披露
- 一、教員紹介
- 一、入学生代表の言葉(宣誓)
- 一、閉式の辞
- 一、修礼

式次第



先端経営学科

先端経営学科へ期待をもって入学してきた皆さんを迎え、これから共に活動し、学びあうことができることを大変嬉しく思っています。という学科長の挨拶で始まり、次に、各教員が自己紹介を兼ねて、大学生活への心がけを各自の立場から話されました。特に今年度から学生の学習や生活上の諸問題に関する助言と指導のための「卒業支援学修アドバイザー」制度が実施されることが説明され、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いをさせていただきました。



システム情報学科

新入生を迎えるにあたり、学科会議を開催し、新入生を温かく迎える気持ちを持って、新入生および保護者の方を歓迎することを教員間で再確認しました。

ミーティングは、尾崎先生が司会を務められ、学科長の歓迎のあいさつ、学科全教員の紹介、担任による自己紹介、スタートアップに関する諸注意の伝達という内容で行われました。教員の紹介では、教員全員が前に整列し、温かく迎える気持ちをそれぞれの表現の仕方で伝えました。



医療情報学科

入学式後の医療情報学科の学科説明会は117教室にて行われました。保護者および新入生を前に、学部長の祝辞にはじまり、共通教育教員から今後のタイムスケジュールおよび大学生活を始めるうえでの留意点、専門教育教員から自身の学問的専門分野の説明および大学生活を有意義に過ごすための提案がなされました。新入生は全ての話真剣に聞き入り、メモをとっている学生も多く、本年度の新入生は今後に大きな期待を持っている印象でした。



情報メディア学科

入学式後の情報メディア学科の説明会をメディアデザインとメディアテクノロジーに分かれてとり行いました。保護者の皆様も多数お残りいただいて有難うございました。保護者の皆様にご挨拶できる貴重な時間ですので、クラス担任と学生チューターを紹介し、大学で行っている学生へのサポート体制を紹介させていただきました。大学といたしましても万全の体制で学生の皆様の成長をサポートいたしますので保護者の皆様方もご協力よろしく願いいたします。





■ ■ ■ ■ ■ 本学 eDC タワーで保護者の会役員会を実施 ■ ■ ■ ■ ■

今年度第 1 回目の保護者の会役員会を 5 月 27 日（金）に、本学 eDC タワー 2 階カフェレストランにおいて開催しました。

開会にあたり、富士隆学長から保護者の会に対するお礼を含めた挨拶と本学が受賞した「イノベーションネット アワード 2016 文部科学大臣賞」についての説明がありました。

その後、1 年生の保護者から新規役員 5 名を選任し、出席者の自己紹介が行われました。

次いで大学からの現況・行事等の報告として、明神就職部長から平成 27 年度卒業生の就職率及び平成 28 年度

の就職指導スケジュールについて、川上学生部長から学生生活について、安倍学生サポートセンター事務室長から平成 28 年度の学内行事についてそれぞれ説明がありました。

役員会終了後の懇親会においては、保護者の会役員の皆様と学生生活・就職活動状況などについて懇談が行われ、ご子女にかける期待と愛情のこもった話し合いに、瞬く間に時が過ぎ、会を終了しました。

役員の皆様には、ご多忙にもかかわらずご出席いただき、貴重なご意見をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

食生活改善運動

春の食生活改善運動（1 コイン朝食）が実施されました。

江別市に所在する4大学（本学、酪農学園大学、札幌学院大学、北翔大学）の共同企画「食生活改善運動 1 コイン（100 円）朝食」が5月25日から27日まで行われました。

この運動も、今回で17回目（平成20年度から春・秋に実施）を迎えました。



朝食は、心身共に健康な学生生活を送るための基礎になります。しかし、親元から離れて生活していると、だんだん健全な食生活から離れ、朝食をとらないことで生活リズムが乱れたり、不規則な食生活が原因で体調を崩してしまうケースも見受けられます。正しい食生活を心がけましょう。



MENU

1日目	2日目	3日目
チキングリル葱塩ソース	ミックスフライ	鶏の唐揚げチリソース
厚焼玉子	ロールキャベツ(トマト風味)	肉団子と大焼売
肉じゃが	スパゲティサラダ	春雨サラダ
マカロニサラダ	コンソメスープ	杏仁フルーツ
ミニたい焼き	ヨーグルト	中華スープ
味噌汁		
つけもの		

※すべてにご飯、牛乳orオレンジジュースが付きます。

編集隊取材

編集の山田です。今回は初めて食べにきました！ワンコイン朝食。

先輩方も言っていましたが、想像以上にボリュームが多くて驚きました。食べ終わるころにはお腹がパンパン。

ワンコイン朝食は学生が不規則な生活を送らないために、健康のことを考えて行われています。私は普段必ず朝ごはんを食べるのですが、家で食べている朝ごはんより豪華です。ちゃんとデザートまでついてますよね。

1日目は和食メニュー。

葱塩ソースとメニューを見てテンションがあがりました。葱が大好きなのでとても嬉しいです。肉じゃがは冷たくてびっくりしましたが、冷めてい

ても変わらずおいしかったです。



2日目は洋食メニュー。

3種のミックスフライはとて大きくて、これなら男の子も満足できそうです。ヨーグルトもついてきて、揚げ物を食べた後でもさっぱりといけます。

3日目は中華メニュー。

とても大きい唐揚げで食べ応えがありました。デザートは杏仁フルーツはなめらかでとてもおいしかったです。

今回の取材を終えて、100円でこんなにたくさんの量のごはんが食べることができて大満足でした。ただ小食な方には結構大変かも・・・？

普段朝食を食べない学生も多いはず。朝食をとることによって、集中力がアップすると言われています。次にワンコイン朝食が行われる際は行ってみたいかがでしょうか？



体育祭

2016.06.17 (Fri) / 06.18 (Sat)

バレーボール
卓球
バドミントン

今年も体育祭が6月17・18日に開催されました。26回目となる今年の体育祭は昨年度よりも参加者が少なく、また、あいにくの雨模様となり、屋外競技やジンギスカン交流会が中止となりました。にもかかわらず、参加者の皆様の熱い思いで体育祭を盛り上げていただいたことと、大きな怪我をされた方もおらず、無事に体育祭を両

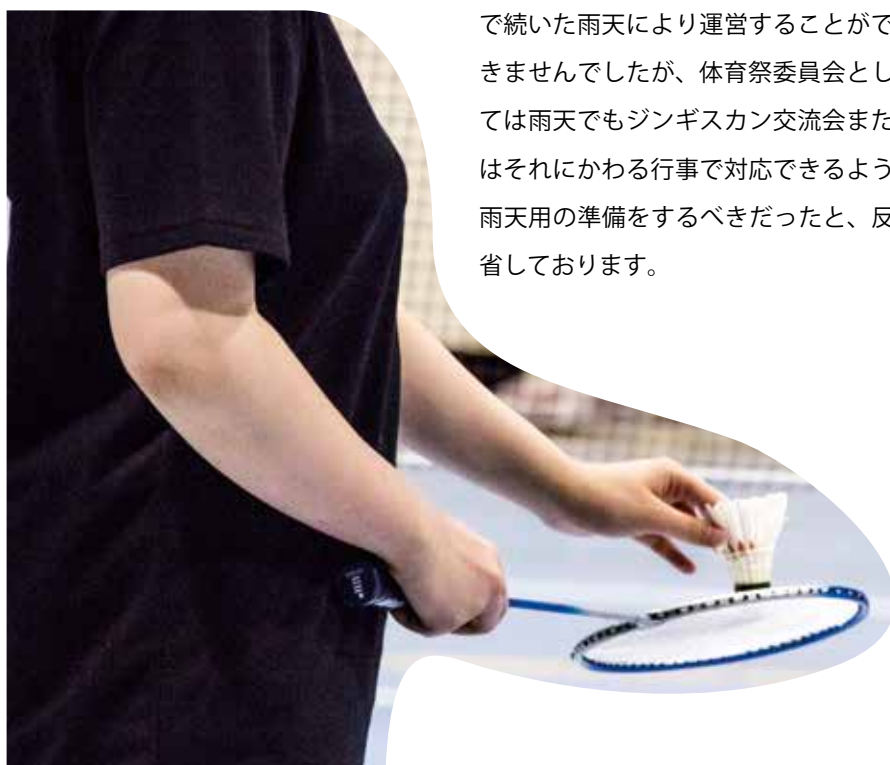


SPORTS FESTIVAL

日も終わることが出来ました。関係者の皆さまに感謝いたします。

今年度は屋外競技が雨天で中止となったため、ソフトボールなどに参加する予定のあった参加者から「雨天用の競技はないのだろうか」というようなご意見を多くいただきました。来年は雨天でも行えるような競技を準備し、皆様楽しんでいただけるように委員会一丸となって努めてまいりたいと思います。

ジンギスカン交流会は交流会前日ま



で続いた雨天により運営することができませんでしたが、体育祭委員会としては雨天でもジンギスカン交流会またはそれにかわる行事で対応できるように雨天用の準備をするべきだったと、反省しております。



今回の体育祭は私が学生実行委員会の委員長を務めてから初の大きな行事運営となり、不安と緊張感がありましたが、実行委員会、各部活サークルの皆様、体育祭参加者の皆様のご協力によって運営することができました。この場をお借りしまして改めて御礼を申し上げます。本当にありがと

うございました。

10月9日・10日に開催される蒼天祭では、体育祭での反省点を活かして準備段階から気を引き締めて委員会一丸となって取り組んでいきますので、皆様のより一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

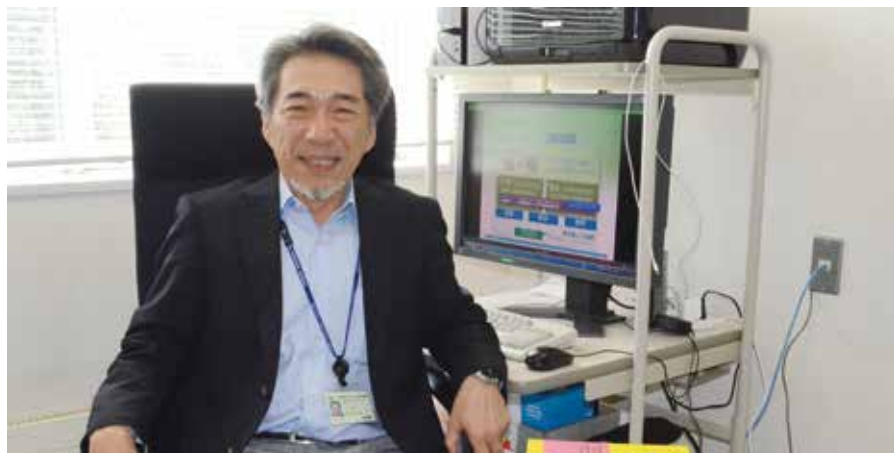
(学生実行委員会 委員長 鈴木健太)

SPORTS FESTIVAL

新任の先生の紹介コーナー

今までの経験を学生に「楽しく」伝えたい。

経営情報学部 先端経営学科 教授 ^{こばしり やすのり} 小走 安則



先生の学内プロフィール

研究分野

インターネット・ビジネス全般
デジタル・ビジネス、
プロジェクト・マネージメント 等

担当する授業

Web ビジネス論
ビジネス・コミュニケーション
プロジェクト・セミナール/セミナール

研究室 305 研究室

皆さん、こんにちは。本年4月に先端経営学科に着任いたしました、小走安則です。よろしくお願いいたします。

“新任教員の自己紹介”と言うことで、まずは簡単に略歴をお話します。生まれは日本の古都・奈良県で、小学校では野球、中学からはサッカーを続けて、古墳や神社・仏閣が点在する田舎を走り回っていました。(今はさすがに無理です・・・ゴルフボールを追いかける程度です。)

大学生活を送った神戸では国立大学で初めてのカタカナ学科(システム工学科)の3期生として、下宿生活をしながら卒業・修士論文のための研究をしていたことを懐かしく思い出します。研究分野は医療のCT画像処理で、医学部の先生との学際研究として当時流行の3D表示や今まさに脚光を浴びている‘AI’を一生懸命勉強していました。

その後、情報処理系の研究室に所属していたこともあり、当時コンピューター・メーカーで世界トップのIBM(正確には日本法人の日本アイ・ビー・エム(株))に就職して神奈川県で暮らし始めて35年、現在に至っています。

その35年のIBM生活の中で、北海道との“縁”を感じる経験を重ねた結果、この4月からの本学への着任に繋がったのかな、と自分勝手に納得しています。その“縁”とは、先ず私が就職して最初のお客様への出張が当時の北海道拓殖銀行様であった事でしょうか。真冬の時期に初めて飛行機で出張し、スキー客だらけの札幌グランドホテルに宿泊してお客様のセンターに通ったことを今でも覚えています。次の“縁”は、それから10数年後に当時の郵政省の管轄プロジェクトの企画の1案件として、札幌市と実証実験を行う企画を推進するために幾度となく来札しました。これは実際に予算が付き正式にプロジェクトとして実施されました。そして直近で6年前に日本アイビーエム・ソリューション・サービスに移った際に、当時の社長との話し合いで札幌に赴任することになり、一昨年までの4年間を札幌で過ごした事がこの“縁”の決定的なものになったと思っています。それに、何といてもこの北海道の豊かな自然と食、そして“人”との縁が決定的な魅力です。

IBM時代の35年間、特に後半25年はほぼ3~4年毎に部門を移動して

いましたが、一貫して新規のビジネス、テクノロジーを推進する部門に自ら身を投じていた、との自負があります。クライアント・サーバー推進、e-ビジネス推進、オンデマンド・ビジネス推進、そしてサービス部門でも対象とするプロジェクトはウェブ系の先進的な分野が多く、ソフトウェア事業でもソリューション推進として現在のIoTやビッグデータの分野にマネジメントとして関わって来ました。

ここまででほぼ頂いた制限の文字数になってしまいました。もう少し具体的に何をやってきたかを紹介したかったのですが、それは別の機会に。

改めまして...今までの経験を、この新しい環境で学生の皆さんに“楽しく”伝えることが出来ればと考えています。是非、よろしくお願いいたします。



釜ヶ崎と YOSAKOI - 2つの原風景を胸に

ふくざわ やすひろ
経営情報学部 先端経営学科 准教授 **福沢 康弘**



先生の学内プロフィール

研究分野

中小企業経営論 / ネオ内発的地域発展論
韓国地域経済論
地域イノベーション・システム論

担当する授業

経営戦略論 / 経営管理論
サービスイノベーション
経営戦略シミュレーション
プロジェクトゼミナールⅠ、Ⅱ

研究室

310 研究室

4月に先端経営学科に着任しました福沢康弘です。韓国の地域イノベーション・システム研究を専門にしております。趣味は茶道（裏千家）です。みなさまにはこれからお世話になります。よろしくお願いいたします。

私は今からちょうど30年前の1986年、高校を卒業して大学に入学しました。30年前の私は絵に描いたような怠惰な学生で、受験勉強から解放された浮かれ気分のまま、授業そっこのけで麻雀やナンパに明け暮れる生活を送っていました。そんな不良学生だった私が30年ぶりに（この間、大学院には5年通っていましたが）大学という場所に舞い戻り、将来ある若者を“まじめに”教育するという大役を担うことになりました。30年という節目の年に、何の因果でしょうか。

そんな不良学生が学生時代に行った社会活動を、一つご紹介します。

大阪の「釜ヶ崎」（日雇い労働者が集まるドヤ街。日本で唯一暴動が起こる場所）で、「越冬支援」に従事したことがあります。年末年始は仕事がな

く、収入のない日雇い労働者たちはホームレスになってしまいます。しかも彼らはお金を取っておくという発想がなく、稼いだお金はすべて酒に使ってしまいます。夜の自動販売機の後ろで、肝硬変で野たれ死にかけている人があちこち寝ているのです（自販機は暖かいから）。そんな人たちに声をかけて、毛布やおにぎりを配り、福祉施設の案内をするという活動が「越冬支援」です。それまで何不自由なく親に育ててもらった20歳の若者にとって、暗がりや死にかけている人を見たり、24時間泥酔状態のホームレスに絡まれたりといった体験は衝撃でした。社会の不条理や矛盾に怒り、弱者へ目を向ける精神は、この体験で養われたと思っています。

不良学生はやがて更生(?)し、新聞社に就職しました。その新聞社時代には、YOSAKOIソーラン祭りの誕生に立ち会いました。入社2年目の若手社員だった私は、当時北大3年生だった長谷川岳氏（現・参議院議員）と意気投合し、祭りの立ち上げに向けて奔走

しました。2人で道庁の知事室に直談判したり、毎晩学生たちと車座になって飲み明かしたりと、熱い思いで過ごした日々が懐かしく思い出されます。思えばこの経験が、私にとって学生指導の原風景です。今日、YOSAKOIは隆盛を極め、また本学は常に上位をうかがう強豪チームと聞いています。そんな本学に赴任できたことは、YOSAKOI誕生に関わった者として感慨深いものがあります。

このような原風景を胸に、これから学生と共にたくさんのことを学んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



北海道ならではの新しい課題に取り組みたい

しみず よしゆき
医療情報学部 医療情報学科 准教授 清水 芳行



先生の学内プロフィール

研究分野

臨床工学

担当する授業

健康科学

ゼミナールI

ゼミナールII

ゼミナールIII

卒業論文

研究室

138 研究室

みなさん、はじめまして。4月に医療情報学科に着任しました清水芳行です。

私は愛知県名古屋市出身で、愛知県外で生活するのは初めてです。北海道の春の花々の綺麗なこと、空が広く青が濃いことなどに感動していますが、6月だというのに自分にとってはまだ寒く感じられ、体調管理に気を使っています。

こちらの大学に来る前は、約20年間いくつかの医療機関において臨床工学技士として心臓大血管手術や心臓カテーテル治療、集中治療、救急医療などに携わっていました。毎日、生と死について考えさせられる緊張感のある現場で働いていました。多くの悲しい経験をして、うまくいかなかった事を悔み、それでも自分達の専門性が患者さんやご家族の幸せのために貢献できる喜びを感じながら仕事をしてきました。だから私は、来年度開設される臨床工学専攻で、自分達が育てた学生が将来沢山の命を救う活躍をしてくれることを夢みている、そのために尽力し

たいと思っています。

また、現代の医療というのは多くの職種から成り立っています。医療情報学科の学生さんが目指している診療情報管理士やメディカルクラークは、病院経営上また医療安全の観点からも今後益々重要なポジションになると思います。私自身もカルテの記載ミスや点数の取り忘れなどを指摘していただいて助けてもらったことが何度かあり、そういった職種を目指す学生さんの教育に微力ながら貢献できることに喜びを感じています。

これといった趣味はありませんが、強いて言うなら昔から本を読むのが好きで、今でも暇さえあれば図書館や本屋さんによく行きます。渡辺淳一や沢木耕太郎、ボブ・グリーンなんかが好きでほとんど読んだと思います。あと旅行も好きですね。20代の頃は海外によく行きました。その土地で生活している人たちを見るのが好きです。世界は広くて色々な文化や習慣があって、旅先でのちょっとした出来事がすべていい思い出となっています。

せっかく北海道に来るチャンスに恵まれたので、この土地ならではの新しい課題に取り組みたいと考えています。

寒冷地でのAEDの保守管理や配置の最適化や、心臓植込み型デバイス患者の遠隔モニタリングシステムの運用については非常に興味深く、今までの研究成果を活かせるのではないかと考えています。

どうぞ、宜しくお願い致します。



未来を変えるために自分を変える

情報メディア学部 情報メディア学科 准教授 ^{いつうら てつや} 五浦 哲也



先生の学内プロフィール

研究分野

特別支援教育 / 生徒指導
臨床心理学 / カウンセリング

担当する授業

特別支援教育論 / 生徒指導
教職実践演習 / 教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
介護等体験指導

研究室

858 研究室

私は、義務教育の小・中学校で 31 年間教員として勤務してきました。その中で、私の教育観に繋がることが 2 点あります。

1 点目は、特別支援教育です。子どもたちと向き合う中で、それまでは順調に教員生活を送っていた私が、ある年に特別支援学級の生徒を教科で教えることになりました。何をどうやっても伝わらないもどかしさや戸惑いと共に無力感さえ感じ 1 年が終わりました。それ以来、特別支援教育は教育の原点であると感じるようになってきました。そして、特別支援教育について学び、特別支援学級の担任を希望し、必死に取り組むようになりました。

2 つ目は、生徒指導です。いじめ、不登校、暴力などの生徒指導問題に対し、経験則に基づくがむしゃらとも言える体当たりの実践の日々を送っていました。しかし、それだけでは、指導は空回りするだけで、子どもたちの心に響かないと感じるようになりました。そして、深く子どもたちの心に寄り添える力量を身に付けたいと考え、

臨床心理士を目指し勉強を始め 6 年かけて資格を取得することができました。

この 2 つの私の教育観を基に、教員生活最後の 5 年間は管理職となり他の教員の資質向上に指導・助言をしてきましたが、何か物足りなさを感じていました。そして、次第に子どもたちの未来を託せる若い人材を育成したいと強く感じるようになりました。この度、念願がかない、本学の大学教員として採用され、これからの日本の教育を背負っていく学生たちと向き合っていくことができることとなり、本当に充実した毎日を過ごすことができている。これから教職課程担当として「特別支援教育論」「生徒指導」「教育実践演習」「教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」等を担当致します。これまで培ってきた教員経験を存分に発揮し学生のため全力で取り組んでいきたいと思ひます。

精神分析の口語版とも言われる交流分析を提唱したエリック・バーンは、過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えることができるという名言

を残しました。私がこれまでの人生で様々な困難に遭遇しても乗り越えることができたのは、このエリック・バーンの言葉に出会えたからだと思っています。今後は、未来に向け本学の発展と無限の可能性を持つ学生のため、自らを変革し続けていきたいと思っています。そのために本学の諸先生方から多くのことを学んでいきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。



新任助教の紹介

情報メディア学部
情報メディア学科 助教

みやにし かずき
宮西 和機



味はありますか？」とお声がかかり、本学でのモバイルアプリケーション開発分野の教員募集に応じて、めでたく本学に助教として採用される運びとなりました。

これまでの就業で得られた技術や知見を総動員して、これからは教員として、「作る力」を如何に学生に伝承していくかということと、研究者としてゲーム分野も含めたソフトウェア開発分野の実学的な発展に貢献していきたいと考えております。

これから、どうぞよろしくお願いたします。



8年ぶりに帰ってきました。

4月より情報メディア学科助教に着任しました宮西和機です。

私はもともと北海道情報大学の卒業生で、8年ぶりに本学へ「帰ってきた」という形になり、着任時は懐かしいという気持ちと、8年間で変わった所に新鮮さを感じました。私が大学を卒業してから特に大きく変わっておりますのは、eDCタワーが建ったことであり、図書館のスペースが非常に広く取られていることに感動を覚えました。

私の経歴を簡単に紹介しますと、まず大学卒業後は札幌市内のシステム開発会社に勤めておりました。こちらでは、北海道内の自治体の保健師さん向けの健康診断結果の情報を管理するシステムの開発に従事しておりました。

この勤めておりましたシステム開発会社は、不況の折もあってか、就業してから半年で倒産することとなりました。この時、再就職先を探すこととなりますが、私は少年時代から、かねてよりゲーム開発に興味があり、

「ゲーム業界に進むなら今がチャンスだ」とばかりに再就職先を探しました。

私は幼少の頃からテレビゲームでよく遊び、小学校5年の頃にはパソコンやプログラミングに触れる機会もあり、自然とゲームを作るということに関心を抱くようになりました。

卒業後勤務していたシステム開発会社から転職するにあたって、再就職先として札幌市内にあるゲーム開発会社の採用募集に応募し、運良くゲーム業界に入ることができ、こちらでは主にプログラマとして5年間従事しておりました。その後、Webやスマートフォンに関するオープンな技術に強く関心を持ち、それらに関わる仕事をしたいという思いから、札幌市内にありますWebやスマートフォンアプリの開発を行う会社に転職をし、こちらでは2年間プログラマとして開発に従事しておりました。

この間、北海道情報大学在学中の所属ゼミナールの恩師であった齋藤健司先生から「大学の先生になることに興

先生の学内プロフィール

研究分野

ゲーム開発

担当する授業

ゲームプログラミングI・演習

ゲームプログラミングII・演習

ゲーム制作演習

Webアプリケーション基礎演習

モバイルアプリケーション開発演習

ゼミナールI・II

プロジェクトトライアルI・II

研究室

114 研究室

ミステリー × 大学

公開セミナー開催 in 紀伊國屋書店札幌本店
1階インナーガーデン



平成 28 年 6 月 11 日 (土)、紀伊國屋書店札幌本店 1 階インナーガーデンにおいて、北海道情報大学地域連携・産学連携センター主催の公開セミナーが開催されました。

紀伊國屋書店で行う、ミステリーをテーマにしたイベントも今回で 3 回目となりました。昨年の「ミステリー × インターネット」に引き続き、今年のメインテーマは「ミステリー × 大学」でした。今年は、よさこいソーラン祭りと日程が重なってしまいましたが、子どもからご年配の方まで幅広い世代の方々が、60 名以上も参加してくださいました。

セミナーでは、まず、司会の先端経営学科・藤本直樹先生から大学紹介があり、その後、先端経営学科・諸岡卓真先生が登壇されると、会場は一気にミステリーの世界へと引き込まれました。諸岡先生は、ご講演「ミステリーと大学のおいしい関係」で、ミステリーと大学の相性の良さをユーモラスな口調で紐解いてくださいました。また、恒例の最新ミステリーランキングの

コーナーもあり、来場者は、ランキングの背景に興味津々の面持ちでした。

次に、「ミステリー狂がお勧めする“この 3 冊”～これを読まずに死ぬるか!?～」と題して、本学非常勤講師でミステリー評論家・作家の大森滋樹先生と先端経営学科の谷口文威先生がそれぞれ登壇されました。思わず読んでみたくなるような熱い語りに、来場者の中には、当日配付した紹介本の一覧表にチェックをつける方やメモをとる方もおられました。また、当日設けられた紹介本の販売スペースでは、完売に至ったお勧め本もあったようです。

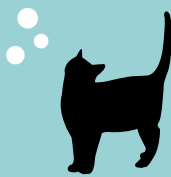
そして最後に、諸岡先生、谷口先生、大森先生による鼎談「“ミステリー × 大学” のあれこれ」が行われました。トピックスとして、大学の推理小説研究会出身の作家の話や、大学とミステリーの新たな接点として、「地域」という切り口が考えられるのではないかと、という話などがあげられました。

鼎談のラストでは、紹介した本の中に、「主人公が無類の『えべチュン』好き」という設定の作品があったことから、情報大とも関係の深い、江別のゆるキャラ「えべチュン」が登場しました。「えべチュン」のかわいい歩き方やしぐさに、会場が大いに盛り上がりました。



このセミナーのお手伝いとして、先端経営学科 3 年生の嶋倉健悟くん、谷原満彦くん、山田健太くんの 3 名が、当日の会場設営、ビラ配り、写真撮影、来場者数のカウントなどに進んで取り組んでくれました。

当日、会場にお越しになれなかった方からも、「情報大、おもしろいイベントをされていますね」などと反響をいただき、新聞等の告知や紀伊國屋書店での掲示などから、宣伝効果の大きさを実感しました。(先端経営学科 松本紗矢子)





フィンランド紀行



工学教育の国際会議 CDIO2016 が、6月12～16日までフィンランドのトゥルク応用科学大学で開催されました。この会議に、先端経営学科の明神先生と参加しました。会議については別の機会で紹介することとして、ここでは6日間のフィンランド滞在について書きたいと思います。フィンランドはスカンジナビア半島の根元にある北欧の国で、北海道と大体同じ人口規模をもつ日本から最も近いヨーロッパです。

今回の出張では、北海道フィンランド協会理事も務める本学情報メディア学科の川上先生に紹介いただき、オウル大学等の視察も行ってきました。



ええっ！飛行機においていかれた！？

会議が行われたトゥルクは、フィンランドの旧都です。現在の首都ヘルシンキから170kmほど西に位置し、ヘルシンキで乗り換えてトゥルクまでの



CDIOの会場となったトゥルク応用科学大学

フライト予定でした。ところが、乗り継ぎ時間が短すぎて間に合わないというハプニングが起きました。ヘルシンキについたのは15:35、乗り継ぎ便の搭乗時刻は15:45！10分しかなかったのです。入国審査を終えてゲートにたどり着いたのは、ちょうど出発時刻。既に次の便名が表示されていました…。夜遅い便しかなかったため、バスに振り替えてもらいました。



バスでは、同じ会議に参加する木更津高専一行と一緒にになりました。2時間ちょっとのドライブです。車窓からの景色は、なんだか北海道にいるみたいでした。富良野や道東方面の農村風景とそっくり。木々は白樺がメインで、北海道でもよく見かけるような植生に見えました。一つ違ったのは、地面のすぐ下が凄い岩盤になっているということでした。いたるところで岩盤があらわになっていて、スウェーデン等でもよく見かけるスカンジナビア独特な感じでした。トゥルク到着は19時過ぎでしたが、まだ午後早い時間のような感じでした。



フィンランドの夜(?)は長い！

フィンランドは緯度が高く、この時

期は白夜です。日没は大体22:40頃で、天気の良い日は時間感覚が完全に狂います。トゥルク滞在中は朝から夕方まで会議に出席していたので、主に夕食後の22時くらいからを散策タイムにしました。外の明るさは札幌の18時くらいです。学生時代にまちなみの研究をしていたこともあり、出張先では出来る限りあちこちを散策しています。フィンランドと言えば、アルバー・アアルト！20世紀を代表する世界的建築家です。もちろん、トゥルクにもアアルトの作品があります。それを探して、街へ繰り出しました。ネットで調べてみると、なんと、宿泊しているホテルのすぐ真向かいに一つの作品が！あと二つは、それぞれ歩いて15分程度のところにありました。周辺の道も歩き回り、まちなみを堪能。深夜の夕焼けにびっくり、その中で多くの若者達が公園でピクニックしているのに更に驚かされました(深夜0時前後です)。



フィンランド・デザイン

フィンランドには、世界的に有名なキャラクターやデザイン商品が沢山あります。ムーミンもサンタクロースもそうです。そして、女性に大人気のマリメッコや北欧モダン家具の代表ブランドアルテック、不思議な形の花瓶アアルトベースでも知られるガラスメーカーイッタラ、かつて世界最大の携帯電話端末メーカーとして知られたノキアなども全て

フィンランド・ブランドです。

国際会議の夕食会が、トゥルクから17kmほど離れた水辺のリゾート地ナンタリでありました。知らずに行きそびれましたが、近くにはムーミンワールドがあり、ムーミンパパとスナフキン、そして陽気でおしゃべりなミイと出会いました。



RMUTT のナタ先生と再会

CDIO の会議が終了し、明神先生は空路で札幌へ。私は、ヘルシンキまで鉄道で移動して、そこから600kmほど北方にあるオウルに飛びました。オウル大学にあるイノベーションアリーナと都心部にあるビジネスキッチンという施設を視察するためです。イノベーションアリーナは、イノベーションを生み出すための新しい空間で、とてもおしゃれでした。本学でも、コルビュジエがデザインしたソファ LC2 を配置した談話コーナー等を随分前に整備しましたが、ワークスペースもこん



アアルトスタジオ

などといいですね。オウル空港のゲートでは、素敵な待合所を見ました。なんだか、家の居間のようにリラックス出来る空間でした。

帰国前夜から1日弱をヘルシンキで過ごしました。あいにくの悪天候で、白夜のはずなのに真っ暗。ヘルシンキ空港に荷物を預け、ホテルには通勤で使っているバックパッカー一つでチェックイン。グーグルマップの乗り換え案内を駆使し短い時間でも、フィンランドシアホールやアアルト大学など、アアルトの作品を効率的に数多く廻る予定でした。が、二日とも激しい雨に負け、ホテル近くのアカデミア書店とアルテックを閉店間際に見て、翌朝はアアルトのスタジオと自邸に絞って見学



アアルト邸

しました。アアルトのスタジオでは、CDIO に出席していたオーストラリア人や、私がシドニー大学に招かれていた時に同じ建築学部で教鞭をとっていた先生に会い、盛り上がりました。出会いとは面白いものです。スタジオには、アルテックで販売している家具の積層合板の曲げ方を示す展示物や、アルテックの家具や照明も配置され、私にとっ

ては勉強になる贅沢な空間でした。

フィンランドの空港はとてもハイテクで省力化されていました。出入国審査も、IC パスポートを持っていると、機械相手に行います。自動チェックイン機では、預け荷物のタグも印刷され、荷物への取り付けからバーコードのスクリーン、コンベヤーに載せるまで全てセルフサービスで出来ます。システム全体の多くが機械化されているため、乗り継ぎ時間なども短縮されているようです（乗れませんでしたけど…）。システムに客の方が追いついていない感じでした。



またいつの日か

短いフィンランド滞在でしたが、教育力の高い国だけあって、町中どこでも英語が普通に通じます。そのうえ、フィンランド人はルールをきちんと守る人たちでした。日本以外では、車が走っていないときに赤信号で立ち止まっている人を見かけることはまずありませんが、フィンランド人は老若男女問わず、見事に信号を守っていました。多くのフィンランド人との交流を通じて、親近感を覚えました。そして、訪問したどの大学も、日本との国際交流に強い関心を持ち、本学にも興味を持ってくれました。近い将来、彼らとの学校間交流が持てる日が来るかもしれません。「今度は、もう少しゆっくり訪ねたい」そんな気持ちで彼の地をあとにしました。

齋藤ゼミ

医療情報学部
医療情報学科



334研究室は、バイオインフォマティクス（生命情報科学）を専門としています。

医学や生命科学の諸問題を、コンピュータを使って解き明かしたり、生物（集団）がうまくやっている様子を応用し、コンピュータ上に再現して現実の問題を上手に解いたりします。ここでは、生命科学及び医学の基礎知識とともに、統計学や機械学習の技術を

駆使することになります。私自身は疾患に関係するタンパク質の構造解析を専門としていますが、重篤な症状を持つ疾患だけではなく、日々の生活における体調管理や健康促進に対しても、遺伝子情報等の解析を通じて貢献出来ないか考えています。コンピュータを使って今までとは何か別のことをやってみたいとか、生命科学や医学の問題についてじっくり考えてみたいとか、何か人とは違うことをやってみたいとかいう方は、研究室を覗いてみるのもいいかもしれません。

研究室では、基本的には各々がやってみたいことや知りたいことを各自調査して発表する、という活動を主に行

なっています。皆さん自由な発想で自分が面白いと思ったことを発表し、それについて様々な角度から議論しています。

この他、コンピュータプログラミング実習や、教科書輪講なども行なっています。ゼミでの活動を通じて、自ら考え、至るところにある問題に気づく力や、情報の洪水の中から必要なものを見つける力、そして自らの問題解決を他人と共有できる力を見につけ、社会人としてより良く生きるためのスキルを磨いてもらえればと考えています。



若松ゼミ

経営情報学部
システム情報学科



今のゼミ生は、宇宙情報システムコース開設の第一期生です。宇宙の入門講義を聞いた世代なので、宇宙への興味も深いようです。ゼミ生諸君からの要望もあり、堅苦しい勉強だけではつまらないというので、昨年はペットボトルロケットの製作と飛翔実験をやりました。ペットボトルロケットの製作記事をゼミ生諸君に配り、材料は自

分たちで調達してもらい、製作は夏休み中に取り組んでもらいました。夏休み明けのゼミの時間に飛翔実験をやりましたが、当初はなかなか思い通りに高く遠くまで飛んでくれませんでした。でもしばらくするとコツをつかんだようで、水をかぶりながら楽しくロケット実験に興じました。

今年はいよいよ卒論なので、春から準備を始めました。ゼミ生には、なかなかこれが大変なのですが、自分で卒論のテーマを考えてもらいたいと考えて、頭をひねるように促しています。今のところ、なかなかユニークな案が出てきています。ペットボトルロケットの性能、月面で野球をやったらどう

なるか、月からロケットを上げるとどうなるの、人工衛星のミッションと軌道など多彩な案が出ており、これから先、とても楽しくゼミ活動ができる予感があります。方針としては、プログラミングも大事なのですが、ユニークなアイデアやシステムを考え出し、それを論文に発展させる過程を重視したいと思います。



新井山ゼミ

情報メディア学部
情報メディア学科



2005年の開講以来、ゼミ生が手掛けた活動テーマは60件以上。その中には、「ジャマイカ」「ポッドキャスト」「ジャグリング」「アカペラ」「自作フォント」「食虫植物」「電子オルガン」などの、独創性に溢れたものが少なくありません。

ゼミの特徴としては、「自主的・自発的・自律的活動」（企画の持込みが可能で、課題や計画を一から立案、教

員も助言の上でテーマを決定）、「配属直後から本格的に活動」（早期活動によって後々の単位取得や就職活動にも十分な時間を確保）「毎週のゼミは活動状況の報告に集中」（その他ゼミ活動のための作業は自宅や大学の空き時間を有効に活用）といった点、そして、冒頭にもご紹介した、他の追従を許さぬユニークな活動テーマの数々が挙げられるでしょう。

過去のゼミ活動を知る一番手っ取り早い方法としては、研究室の壁面に掲示してある「卒業研究・制作報告集」を見て戴くのが良いでしょう。その他にも、公式 Web サイト（短縮 URL <http://bit.ly/lab129hiu>）には、過去から現在に渡っての活動に伴うディジタ

ル・コンテンツ各種がアーカイブされています。

公式行事として年4回の開催が規定される「酒宴」も、ゼミのユニークさを特徴づけるものでしょう。現役生のほかに OB/OG の参加もあり、学生生活や就職活動などの豊富な知見が先輩から後輩に伝承される貴重な機会です。最近も、商談先の旭川からその日のうちに野幌に馳せ参じてくれた熱心な先輩がいます。



先生ってこんな研究してるんだ!!

～ 情報大の先生の研究を紹介します! ～



情報メディア学部 情報メディア学科

向田 茂 先生

Q1 先生は、大学で何を学び、どのような学生生活を送っていたのですか？

30年くらい前の話になります。高校を卒業し、専門学校でプログラミングを学びました。当時は、事務処理用のプログラム言語である COBOL や科学技術計算用の FORTRAN がプログラミング言語の主流でした。C 言語が主流になるのはそれから数年後です。

卒業後は、本学のグループ企業である SCC に入社し、国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) で研究補助業務をすることになりました。ATR では、情報技術に関わるさまざまな研究をおこなっていて、自然言語処理や手書き文字認識などの研究に携わりました。最も長く関わったのが、顔の認知に関する研究でした。心理学者の多い研究室で、認知的研究のための実験・解析プログラムの作成をしていました。

そんな中、研究を円滑にすすめるために、顔写真を自由に合成・生成するシステムの開発をおこないました。これを学会発表すべきだという周囲の勧めから、研究の世界に足を踏み入れることとなりました。その後、仕事を続けながら大学院で学び、顔写真の年齢操作技術や認知に関する研究を続けています。

Q2 先生の研究分野のことを教えてください。

私の研究分野を一言でいうと、「顔」

です。顔の研究は、文学、医学、心理学、社会学、工学など、様々な領域でおこなわれています。私はというと、特に認知心理学や工学に関わる研究をおこなっています。

みなさんは私の写真を見て、「ああ。〇〇歳くらいだなあ。」と思うでしょう。正解ではないかもしれませんが、概ね正しい年齢を想像できていると思います。私のことを 20 代だと思った人はいますか？ 70 代だと思った人はいますか？ おそらく、いないと思います。大半の人は 40 代か 50 代と思ったのではないのでしょうか。

ところで、みなさんはどうして私の年齢を 20 代や 70 代ではないと思ったのでしょうか。説明しろといわれると難しいですね。なんとなくそう感じただと思います。その、なんとなくという感覚を説明できると、いろいろなことができるようになります。たとえば、機械で年齢を計測できるようになります。あるいは、年齢を自由に操作することができます。誰が見ても 25 歳に見える顔や、見る人によって、ばらばらな年齢に見える、いわゆる年齢不詳な顔を作れると楽しいと思いませんか。

Q3 先生の研究は今後どのような役に立ちますか？

直感的にわかったり、感覚的にわかったりといったことは多いと思いますが、そういった事象を言葉で説明するのは難しいですね。百聞は一見にしかずといいますが、見える形にすると簡単に説明できることも多いです。顔のそういった事象を、見える形で示すということが、私の研究の役立つことのひとつです。たとえば、最近では「林先生が驚く初耳学！」というテレビ番組に、日本人の年代別の平均顔を提供

しました。平均顔とは、沢山の人の顔を集めてきて、平均化するのですが、平均化に用いた人たちが共通に持っている特徴が現れます。図 1 は、40 代の日本人の女性だなあとと思いませんか。情報大生を集めれば、情報大らしい顔を作れます。



図 1. 40代日本人女性の平均顔

Q4 先生のゼミ生たちは、どのような研究をしているのですか？

授業では、3DCG や画像処理を担当していることもあり、ゼミには 3DCG に関わることをしたいという学生が多く集まります。3DCG 制作をはじめ、モーションキャプチャや、3D プリンタ、プロジェクションマッピング、AR など、視覚情報を用いた取り組みに挑戦してもらっています。顔に関わる研究をしたい人も大歓迎なんです。

Q5 先生が本学の学生に伝えたいことはありますか？

一度の人生です。楽しみましょう。みなさんの年代でしかできないことや、感じられないことが沢山あります。それを、一所懸命感じて欲しいです。私自身のことを思い返すと、失敗のほうが多いですが、一所懸命やったことで、無駄だったと思うことはありません。今、やっておくべきだと思うことを一所懸命に楽しんでみてください。一言付け加えると、信念と責任をもって挑戦してください。



ポスター制作：敦賀琴里さん（情報メディア学科3年生）



6月11日(土)に、「第7回留学生の日本語弁論大会」が開催されました。

最初に実行委員長の玉置先生から、本大会の目的として、「留学生の日本語能力を高める」、「留学生が日本文化に造詣を深める」、「聴衆が留学生の生活を理解する」という3点であることを話してくださいました。

今年の大会ポスターは情報メディア学科3年生の敦賀琴里さんが担当してくれました(ディレクター:隼田教授)。たいへんさわやかで明るい印象であり、今年のポスターも好評を博していました。

参加者数ですが、今年は10名(当日棄権2名)でした。4年生が7名、3年生が2名、2年生が1名でした。

審査基準は審査委員長の飯嶋先生より、「発音及び流暢さ」「語彙・文法などの正確さ」「弁論の構成と論旨の適切さ」「発表時の態度や表情、声の大きさ」「質疑応答におけるできばえ」と説明がありました。原稿に依存していないかどうか含まれます。質疑応答の質問者は飯嶋先生と田中(里)先生がご担当されました。発表者の内容

に沿った、たいへん工夫された質問で留学生も答えやすかったと思います。

発表の内容は、日本の生活や日本と中国の比較に関するものが多数みられました。

結果ですが、最優秀賞はなんと3年連続で情報メディア学科4年生の胡照臨君で、「日中の就活事情」について、リサーチした努力がよくわかる内容で流暢に発表してくれました。求人の特徴や選考方法など内容が複雑な表現を含むので、彼の日本語力の高さが伝わりました。優秀賞は、情報メディア学科4年生の程家圓さんで、「私が理解したボランティア」と題して、映画祭のボランティア経験について話してくれました。もう1人は先端経営学科4年生の王維成君で、「日本の生活の3つの問題」というタイトルで、「言葉」、「性格」、「友人関係」について、日中の違いを中心に話してくれました。彼は2年連続の優秀賞でした。努力賞は情報メディア学科4年生の洪熙君で「中国の仕付宝」というタイトルで、中国のスマホでの便利な支払いシステムについて紹介してくれました。もう1人の努

力賞は情報メディア学科4年生の紀安瑠さんで、「私から見た日本」と題して、日中の社交の違いについて話してくれました。

大会後には参観に訪れた富士学長からお話があり、閉会の辞として、審査員である筆者も一言挨拶させていただきました。

今年も例年同様、楽しく有意義な大会になりましたことを主催者の一員としてたいへんうれしく思います。留学生支援室の皆さん、手伝ってくれた日本人学生の諸君に感謝申し上げます。当日ご来場された先生方にもお礼申し上げます。そして、一生懸命発表してくれた留学生のみなさんの元気な姿がととも印象的でした。大会の表彰式は7月21日(木)に開催されます。



3年連続で最優秀賞の胡照臨くん（情報メディア学科4年生）

この先生の裏の顔シリーズ



第8回 松本紗矢子先生

経営情報学部

相手に合わせた言語を
自在にあやつる
会計学界の新星の正体は？

その日、彼女は朝から弱々しかった。聞くところによると、「風が強くて、歩くのが大変だったんですよ。地元の大阪だと、こんなに強風なのは台風の時以外ほぼないので」とのことだった。「北海道で暮らすことになったとき、雪は覚悟していたけれども風の強さは想定外だった！」——彼女の苦手なものは、強風の日であった。

そうそう、先ほどの言葉にあったように、彼女は大阪生まれ。北海道に来るまで、ずっと大阪で過ごしていたのである。そのわりに、関西弁ではない。彼女に聞いてみると、口ごもりながら「標準語で話しかけられると標準語になる」とのことだった。その論理でいけば、関西弁で話しかけてみると関西弁になるのかもしれないし、アラビア語で話しかけてみるとアラビア語になるのかもしれない。

ということは、阪神ファンなのか、というと、小さいころは野球好きの父親の影響を受けて、巨人を応援していたらしい。大阪人として、あるまじき

嗜好である。小学生のこ

ろには、父親と巨人を応援しに甲子園へ行行って、巨人対阪神戦を見たそうだった。ところが、その試合は5対6で阪神が勝ち、周囲が歓喜にむせぶ中、親子はブルーな気持ちで帰路についたという。

彼女は、野球の阪神にはまるで興味を示さなかったが、百貨店の阪神、すなわち、大阪・梅田の阪神百貨店は好きであった。その地下1階には名物イカ焼きが売られているからである。このイカ焼きは、単にイカを焼いたものではない。「秘伝のダシとこだわりの小麦粉、歯ごたえのあるカットしたイカを練り合わせ、上下高温の専用鉄板で挟んで一気に焼き上げた（阪神梅田本店HPより）[1]」、いわば“粉もん”なのである。やはり“粉もん”が好きだという彼女に、その代表の1つといえる、たこ焼きについてエピソードを聞いてみた。

ゼミの飲み会でたこ焼きを作った際に、ゼミ生たちから「先生が作ったやつを食べてみたいです！本場の味を食べさせてください」と言われたものの、彼女はたこ焼きを作った経験がなかった。彼女の実家には、“大阪には一家に一台ある”と噂されるたこ焼き器がなかったのである。「大阪出身なのに！」とゼミ生たちからブーイングを受ける

中、「食べるのが専門なんだ〜。あっ、そういえば、JR大阪駅近くの“はなだこ”というたこ焼き屋さん、おいしいよ！」などと話をすり替えていくあたり、まだまだ彼女には裏の顔がありそうである。

さらに彼女の裏の顔にせまっていこう。彼女は歌が好きである。カラオケではない。5・7・5・7・7で詠む、短歌の方である。パソコンで「短歌」と打とうとして、「単価」とまず変換されてしまうのは、会計学教員ならではあった。最近は、詠めていないらしいが、昔はこんな歌を詠んでいたらしい。

黒板に飛び跳ねている数式を
ノートにきっちり閉じ込めていく
(NHK短歌、2012年2月26日放送、テーマ「跳ねる」、二席 [2])

彼女の投稿先は、基本的にNHK短歌である。うまく詠むことができればNHKの教育テレビで自分の詠んだ短歌が放送され、『NHK短歌』という雑誌にも掲載される。彼女は、「ネットで投稿できるし、若い人の投稿も盛んなので、ぜひ学生のみなさんにも想像力に満ちあふれた短歌を詠んでほしい」と言う。なお、彼女には、某恋愛短歌大会で入選した経験があるそうだった。彼女がそのとき、どんな恋の歌を詠んだのか。それは彼女だけの秘密である。

ひみつ



[1] 阪神梅田本店ホームページ (<http://www.hanshin-dept.jp/hshonten/ikayaki/index.html/>) 2016年6月4日アクセス
[2] NHK編集 (2012)『NHK短歌』4月号82頁、NHK出版

学校法人 電子開発学園 平成27年度決算の概要

平成27年度決算が理事会ならびに評議員会で承認されましたので、その概要についてお知らせいたします。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「事業活動収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

1. 資金収支計算書

平成27年度の収支状況を資金収支計算書により資金の流れを予算と決算で比較します。

(1) 収入の部

学生生徒等納付金及び手数料収入が3百万円増加、寄付金収入が1百万円増加、補助金収入が9百万円増加、付随事業・収益事業収入が20百万円減少、受取利息・配当金収入が2百万円増加、雑収入が6百万円増加、学費前受金収入が46百万円増加、その他の収入は長期預金繰入収入で1億50百万円増加、預り金受入収入で41百万円増加しました。収入の部合計は99億34百万円となり、2億25百万円の収入増となりました。

(2) 支出の部

人件費が16百万円減少、教育研究経費及び管理経費が64百万円減少、設備関係支出は2百万円減少しました。資産運用支出の長期預金繰入支出は新規預け入れで1億円増加、退職給与引当特定資産繰入支出が6百万円増加しました。翌年度繰越支払資金は48億54百万円で1億77百万円増加し、支出の部合計は99億34百万円となり、2億25百万円の支出増となりました。

2. 事業活動収支計算書

平成27年度から学校法人会計基準の一部改正により、消費収支計算書が事業活動収支計算書に変更となり、「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3つの事業活動に区分し、それぞれの収支状況を把握することができます。

「教育活動収支」

(1) 収入の部

学生生徒等納付金、寄付金、經常費等補助金、雑収入で18百万円増加し、付随事業収入が20百万円減少となり、収入合計は40億36百万円、予算対比2百万円減少となりました。

(2) 支出の部

人件費、教育研究経費、管理経費、徴収不能額等で84百万円減少となり、支出合計は39億87百万円、84百万円減少となりました。「教育活動収支差額」は49百万円、予算対比82百万円増加となりました。

「教育活動外収支」

(1) 収入は受取利息・配当金が86百万円で2百万円増加となりました。

(2) 支出は借入金等利息が14百万円で、「教育活動外収支差額」は72百万円、2百万円増加となりました。「經常収支差額」は、1億21百万円、予算対比84百万円増加となりました。

「特別収支」

(1) 収入は1億69百万円で2百万円増加となりました。

(2) 支出は24百万円で3百万円減少し、「特別収支差額」は1億45百万円、予算対比6百万円増加となりました。

「基本金組入前当年度収支差額」は2億66百万円で90百万円増加となりました。

「基本金組入額合計」は1億44百万円で9百万円減少となりました。

「当年度収支差額」は1億22百万円で99百万円増加となりました。

「翌年度繰越収支差額」は10億81百万円で99百万円増加となりました。

3. 貸借対照表

平成27年度の財政状態を貸借対照表により本年度末と前年度末で比較します。

(1) 「資産の部」

合計で151億91百万円と前年度末対比1億95百万円増加しました。

「固定資産」は主に建物が講堂照

明器具更新工事等で22百万円増加、減価償却額で1億65百万円減少、教育研究機器備品が実習室パソコン等購入で53百万円増加、減価償却額で89百万円減少、退職給与引当特定資産が13百万円増加、有価証券は債券の期限前償還による購入で2億57百万円増加しました。長期預金は50百万円が満期となり、定期預金(現金預金)にしたため、長期預金が50百万円減少、これにより固定資産合計101億86百万円で64百万円増加となりました。

「流動資産」は50億5百万円で1億30百万円増加し、主に現金預金が1億69百万円増加、未収入金が31百万円減少となりました。

(2) 「負債の部」

合計で30億31百万円と前年度末対比71百万円減少しました。

「固定負債」はeDCタワー等の長期借入金が92百万円減少、退職給与引当金が18百万円増加、長期未払金が3百万円増加し、合計71百万円減少となりました。

「流動負債」は未払金が23百万円増加、預り金が61百万円増加、学費前受金が75百万円減少、短期借入金10百万円減少し、合計1百万円減少となりました。

(3) 「純資産の部」

合計で121億60百万円と前年度末対比2億66百万円増加しました。

「基本金」は110億79百万円で固定資産のうち継続的に保持すると判断されるものの額を示す第1号基本金への組入額が1億44百万円増加しました。

今日、私学を取り巻く環境は、学齢人口の減少等により年々厳しくなっています。本学園は、健全な財務体質を維持するために教職員が一致結束して、特色ある教育活動や教育サービスの見直しにより定員確保に努め、また経費節減に取り組み、安定した学校経営を推進する所存です。

1. 資金収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

支出の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,331,231,000	3,334,592,753	△ 3,361,753
手数料収入	32,314,000	31,491,613	822,387
寄付金収入	3,424,000	4,486,000	△ 1,062,000
補助金収入	308,124,000	317,293,993	△ 9,169,993
国庫補助金収入	271,114,000	280,937,000	△ 9,823,000
地方公共団体補助金収入	37,010,000	36,356,993	653,007
資産売却収入	900,003,000	900,194,354	△ 191,354
付随事業・収益事業収入	301,459,000	281,594,491	19,864,509
受取利息・配当金収入	83,226,000	85,597,983	△ 2,371,983
雑収入	54,429,000	60,070,958	△ 5,641,958
前受金収入	1,429,921,000	1,476,378,897	△ 46,457,897
その他の収入	212,335,000	403,803,232	△ 191,468,232
資金収入調整勘定	△ 1,631,414,000	△ 1,645,927,429	14,513,429
前年度繰越支払資金	4,684,616,000	4,684,616,067	△ 67
収入の部合計	9,709,668,000	9,934,192,912	△ 224,524,912

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,931,869,000	1,915,979,728	15,889,272
教育研究経費支出	1,192,354,000	1,152,422,301	39,931,699
管理経費支出	624,666,000	600,720,466	23,945,534
借入金等利息支出	13,621,000	13,620,754	246
借入金等返済支出	101,471,000	101,470,000	1,000
施設関係支出	38,719,000	38,340,000	379,000
設備関係支出	93,668,000	91,957,129	1,710,871
資産運用支出	1,061,302,000	1,167,109,019	△ 105,807,019
その他の支出	481,336,000	462,567,369	18,768,631
資金支出調整勘定	△ 505,822,000	△ 463,766,802	△ 42,055,198
翌年度繰越支払資金	4,676,484,000	4,853,772,948	△ 177,288,948
支出の部合計	9,709,668,000	9,934,192,912	△ 224,524,912

活動区分資金収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

(単位：円)

	科目		金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,334,592,753
		手数料収入	31,491,613
		特別寄付金収入	3,278,000
		一般寄付金収入	1,146,000
		経常費等補助金収入	310,159,993
		付随事業収入	281,594,491
		雑収入	59,050,958
		教育活動資金収入計	4,021,313,808
	支出	人件費支出	1,915,979,728
		教育研究経費支出	1,152,422,301
管理経費支出		600,580,414	
教育活動資金支出計		3,668,982,443	
差引		352,331,365	
調整勘定等		△ 45,579,696	
教育活動資金収支差額		306,751,669	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	62,000
		施設設備補助金収入	7,134,000
		施設設備売却収入	194,354
		施設整備等活動資金収入計	7,390,354
	支出	施設関係支出	38,340,000
		設備関係支出	91,957,129
		施設整備等活動資金支出計	130,297,129
	差引		△ 122,906,775
	調整勘定等		13,542,621
	施設整備等活動資金収支差額		△ 109,364,154
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		197,387,515	

	科目		金額
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	900,000,000
		退職給与引当特定資産取崩収入	54,273,309
		その他の収入	243,459,691
		小計	1,197,733,000
		受取利息・配当金収入	85,597,983
	過年度修正収入	1,020,000	
	その他の活動資金収入計	1,284,350,983	
	支出	借入金等返済支出	101,470,000
		有価証券購入支出	1,000,000,000
		退職給与引当特定資産繰入支出	67,109,019
その他の支出		129,423,854	
小計		1,298,002,873	
借入金等利息支出	13,620,754		
過年度修正支出	140,052		
その他の活動資金支出計	1,311,763,679		
差引		△ 27,412,696	
調整勘定等		△ 817,938	
その他の活動資金収支差額		△ 28,230,634	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		169,156,881	
前年度繰越支払資金		4,684,616,067	
翌年度繰越支払資金		4,853,772,948	

2. 事業活動収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科目		予算	決算	差異	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,331,231,000	3,334,592,753	△ 3,361,753
		手数料	32,314,000	31,491,613	822,387
		寄付金	3,399,000	4,424,000	△ 1,025,000
		経常費等補助金	300,990,000	310,159,993	△ 9,169,993
		国庫補助金	263,980,000	273,803,000	△ 9,823,000
		地方公共団体補助金	37,010,000	36,356,993	653,007
		付随事業収入	301,459,000	281,594,491	19,864,509
		雑収入	68,618,000	73,484,550	△ 4,866,550
		教育活動収入計	4,038,011,000	4,035,747,400	2,263,600
	事業活動支出の部	人件費	1,943,997,000	1,931,494,986	12,502,014
教育研究経費		1,439,767,000	1,399,456,138	40,310,862	
管理経費		659,321,000	635,737,685	23,583,315	
徴収不能額等		27,912,000	19,969,660	7,942,340	
教育活動支出計		4,070,997,000	3,986,658,469	84,338,531	
教育活動収支差額	△ 32,986,000	49,088,931	△ 82,074,931		

(単位：円)

科目		予算	決算	差異	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	83,226,000	85,597,983	△ 2,371,983
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	83,226,000	85,597,983	△ 2,371,983
	事業活動支出の部	借入金等利息	13,621,000	13,620,754	246
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	13,621,000	13,620,754	246
教育活動外収支差額	69,605,000	71,977,229	△ 2,372,229		
経常収支差額	36,619,000	121,066,160	△ 84,447,160		
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	156,660,000	156,755,908	△ 95,908
		その他の特別収入	10,072,000	12,467,940	△ 2,395,940
		特別収入計	166,732,000	169,223,848	△ 2,491,848
	事業活動支出の部	資産処分差額	10,133,000	6,656,441	3,476,559
		その他の特別支出	17,171,000	17,310,346	△ 139,346
		特別支出計	27,304,000	23,966,787	3,337,213
	特別収支差額	139,428,000	145,257,061	△ 5,829,061	
	基本金組入前当年度収支差額	176,047,000	266,323,221	△ 90,276,221	
	基本金組入額合計	△ 152,734,000	△ 143,992,505	△ 8,741,495	
	当年度収支差額	23,313,000	122,330,716	△ 99,017,716	
前年度繰越収支差額	958,336,000	958,335,906	94		
翌年度繰越収支差額	981,649,000	1,080,666,622	△ 99,017,622		

(参考)

(単位：円)

事業活動収入計	4,287,969,000	4,290,569,231	△ 2,600,231
事業活動支出計	4,111,922,000	4,024,246,010	87,675,990

3. 貸借対照表 平成28年3月31日

資産の部

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	10,185,818,351	10,121,402,084	64,416,267
有形固定資産	6,926,777,904	7,088,537,996	△ 161,760,092
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建築物	4,395,107,036	4,537,889,015	△ 142,781,979
構築物	59,685,338	52,428,751	7,256,587
教育研究用機器備品	267,749,752	304,094,774	△ 36,345,022
管理用機器備品	37,396,213	34,412,824	2,983,389
図書	438,125,361	431,616,875	6,508,486
車両	3,198,055	2,579,608	618,447
特定資産	153,661,225	140,825,515	12,835,710
退職給与引当特定資産	153,661,225	140,825,515	12,835,710
その他の固定資産	3,105,379,222	2,892,038,573	213,340,649
ソフトウェア	38,398,375	31,198,006	7,200,369
有価証券	2,498,000,000	2,241,340,000	256,660,000
長期預金	500,000,000	550,000,000	△ 50,000,000
その他の固定資産	68,980,847	69,500,567	△ 519,720
流動資産	5,004,705,201	4,874,243,880	130,461,321
現金預金	4,853,772,948	4,684,616,067	169,156,881
未収入金	75,022,121	106,369,712	△ 31,347,591
その他の流動資産	75,910,132	83,258,101	△ 7,347,969
資産の部合計	15,190,523,552	14,995,645,964	194,877,588

負債の部

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	947,867,088	1,018,761,297	△ 70,894,209
長期借入金	729,080,000	820,740,000	△ 91,660,000
退職給与引当金	180,345,974	162,094,014	18,251,960
長期未払金	38,441,114	35,927,283	2,513,831
流動負債	2,082,787,547	2,083,338,971	△ 551,424
短期借入金	91,660,000	101,470,000	△ 9,810,000
未払金	413,338,894	390,260,837	23,078,057
前受金	1,476,378,897	1,551,235,128	△ 74,856,231
預り金	101,409,756	40,373,006	61,036,750
負債の部合計	3,030,654,635	3,102,100,268	△ 71,445,633

純資産の部

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	11,079,202,295	10,935,209,790	143,992,505
第1号基本金	10,768,202,295	10,624,209,790	143,992,505
第4号基本金	311,000,000	311,000,000	0
繰越収支差額	1,080,666,622	958,335,906	122,330,716
翌年度繰越収支差額	1,080,666,622	958,335,906	122,330,716
純資産の部合計	12,159,868,917	11,893,545,696	266,323,221
負債及び純資産の部合計	15,190,523,552	14,995,645,964	194,877,588

大学主要行事など <3月1日~6月30日>

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

《事務職員》

12月1日付
(昇格)
広報室課長 小松田 昭人 (広報室課長代理)
(異動)
学生サポートセンター事務室長補佐 田中 克義 (広報室長補佐)
(兼務)
広報室長補佐 田中 克義 (学生サポートセンター事務室長補佐)

《事務職員》

2月1日付
(異動)
総務課用度係主任 中田 圭亮 (会計課用度係主任)

《教員》

3月31日付
(退職)
教授 中岡 快二郎 (情報メディア学科)
准教授 太田 榮子 (医療情報学科)
特任教授 林 雄一郎 (情報メディア学科)
教授 立花 峰夫 (先端経営学科)
(辞任)
通信教育部長 渡部 重十 (4/1付大学院研究科長に就任)

《職員》

3月31日付
(退職)
副事務局長兼図書館事務室長 川口 修一
国際交流・留学生支援事務室長 今長 豊
学生サポートセンター事務室 顧問 赤泊 英哉
学生サポートセンター事務室 顧問 栗林 利廣
会計課 加藤 なつ子
(兼務を解く)
学生サポートセンター事務室長 大橋 正典 (事務局次長)
通信教育部事務部長 安倍 隆 (事務局次長)
広報室長補佐 田中 克義 (学生サポートセンター事務室長補佐)

《教員》

4月1日付
(就任)
医療情報学部長 西平 順
情報メディア学部長 藤井 敏史
通信教育部長 高井 那美
大学院研究科長 渡部 重十
図書館長 松井 伸也
就職部長 明神 知
教務部長 山北 隆典

(配置換)

教授 竹内 典彦 (通信教育部→経営情報学部)
教授 サイモン・ソウラ (通信教育部→経営情報学部)
准教授 諸岡 卓真 (経営情報学部→通信教育部)
准教授 チャールズ・マクラウティ (情報メディア学部→通信教育部)

(昇任)

システム情報学科 長尾 光悦 (准教授→教授)
情報メディア学科 安田 光孝 (准教授→教授)
先端経営学科 松本 紗矢子 (講師→准教授)
医療情報学科 荒木 陽子 (講師→准教授)
情報メディア学科 大島 慶太郎 (講師→准教授)
情報メディア学科 森川 悟 (講師→准教授)

(採用)

教授 小走 安則 (先端経営学科)
准教授 福澤 康弘 (先端経営学科)
准教授 清水 芳行 (医療情報学科)
准教授 五浦 哲也 (情報メディア学科)
助教 宮西 和機 (情報メディア学科)

《職員》

4月1日付
(採用)
事務局次長 阿部 哲夫
(昇任)
通信教育部事務部長 木田 洋 (通信教育部事務部課長)
図書館事務室長 高田 かおり (図書館事務室係長)

(配置換)

アドミッションセンター広報室長補佐 田中 克義
(学生サポートセンター事務室長補佐)
アドミッションセンター広報室課長補佐 檜物 敏昭 (広報室課長補佐)
アドミッションセンター広報室募集係長 清水 靖和 (広報室係長)
アドミッションセンター広報室広報係主任 大山 康成 (広報室主任)
アドミッションセンター入試企画課長 小松田 昭人 (広報室課長)
アドミッションセンター入試企画課企画係長 小川 勝利 (広報室係長)
アドミッションセンター入試課長代理 古賀 朋子 (入試課長代理)
アドミッションセンター入試課入試係主任 對馬 聡子 (入試課主任)
学生サポートセンター事務室国際交流・留学生支援課長補佐 森 一峰
(国際交流・留学生支援事務室長補佐)
教務課 IR 係主任 上田 さゆみ (教務課教務係主任)

(兼務)

アドミッションセンター長 大橋 正典 (事務局次長)
アドミッションセンター広報室長 大橋 正典 (事務局次長)
学生サポートセンター事務室長 安倍 隆 (事務局次長)
学生サポートセンター事務室国際交流・留学生支援課長 安倍 隆 (事務局次長)
アドミッションセンター広報室課長 小松田 昭人
(アドミッションセンター入試企画課長)

◆◆ 3月1日~6月30日 主要行事 ◆◆

◇法人本部◇

2月29日(月)~3月2日(水) 有限責任監査法人トーマツ「平成27年度期中監査」
3月24日(木) 理事会・評議員会
5月12日(木) 理事会・評議員会
5月16日(月)~5月20日(金) 有限責任監査法人トーマツ「平成27年度期末監査」

◇大学◇

3月2日(水) 臨時経営情報学部教授会
臨時医療情報学部教授会
臨時情報メディア学部教授会
3日(木) FDフォーラム
9日(水) 医療情報学部教授会
10日(木) グローバルヘルスケアフォーラム「食と健康と情報」
(13:00~ アステイ45)
経営情報学部教授会
情報メディア学部教授会
11日(金) 一般2期入学試験
15日(火) 大連東軟信息学院 表敬訪問
18日(金) 学位記授与式(10:00~ 講堂)
22日(火) 特別AO入学試験(D日程)、
企業・病院説明会(13:00~京王プラザホテル札幌)
24日(木) 理事会・評議員会
25日(金) 教職員送別会(19:30~ホテル札幌ガーデンパレス)
31日(木) 辞令交付
4月1日(金) 辞令交付
6日(水) 入学式 (10:00~)
7日(木)~12日(火) スタートアッププログラム
(11日(月)~12日(火)新入生宿泊研修)
8日(金) 全学教授会
13日(水) 前期開講
15日(金) 経営情報学部教授会
22日(金) 医療情報学部教授会
情報メディア学部教授会
5月7日(土) 火曜授業日
12日(木) 理事会・評議員会
13日(金) 全学教授会
20日(金) 経営情報学部教授会
医療情報学部教授会
25日(水)~27日(金) 春の食生活改善運動(1コイン朝食)
27日(金) 情報メディア学部教授会
保護者の会役員会(18:15~)
6月9日(木) 学内共同研究成果報告会
10日(金) 全学教授会
11日(土) 留学生日本語弁論大会
17日(金) 経営情報学部教授会
17日(金)~18日(土) 体育祭
20日(月)~25日(土) 保護者授業参観週間

- 24日(金) 医療情報学部教授会
情報メディア学部教授会
24日(金)～25日(土) 平成28年度南京大学外国語学院留学準備クラス聴講生
入学試験及び平成29年度南京大学推薦者編入学試験
25日(土) 月曜授業日

◇大学院◇

- 3月4日(金) 研究科委員会
3月25日(金) 研究科委員会
4月6日(水) 研究科委員会
4月11日(月) 学位論文等研究計画発表会
5月9日(月) 研究科委員会
5月28日(土) 推薦入学試験

◇通信教育部◇

- 3月11日 春期第6回入学者選考
3月31日 春期第7回入学者選考
4月1日 前期インターネットメディア授業開始
4月7日 春期第8回入学者選考
4月11日 前期IPメディア授業放映開始
5月11日 春期第2期入学者選考
5月21日～22日 前期印刷・インターネットメディア授業科目試験①
6月3日～5日 前期地方スケーリング(1)(大分)
6月10日～12日 前期地方スケーリング(1)(新潟、東京)
6月17日～19日 前期地方スケーリング(1)(札幌、名古屋、福岡)

◆◆ 広報活動 ◆◆

《進学相談会》

- 3月：北海道 8会場 (遠軽、網走、江別、帯広、根室、函館、釧路、札幌)
4月：北海道 20会場 (函館(2)、小樽、北見、大樹、旭川(2)、札幌(3)、稚
内、室蘭、花川南、苫小牧、帯広(2)、中標津、新札
幌、釧路、静内)
神奈川県 1会場 (横浜)
5月：北海道 8会場 (旭川、名寄、紋別、札幌(3)、北見、釧路)
青森県 3会場 (青森、弘前、八戸)
6月：北海道 19会場 (伊達、枝幸、八雲、新札幌、せたな、函館、札幌(3)、
名寄、稚内、中標津、知内、江差、帯広、釧路、北見、
滝川、旭川)
埼玉県 1会場 (さいたま)
《高校内ガイダンス》
3月：北海道 4校 (北海道大谷室蘭高校、苫小牧中央高校、旭川明成
高校、美瑛高校)
千葉県 1校 (千葉黎明高校)
神奈川県 1校 (関東学院六浦高校)
4月：北海道 2校 (江陵高校、滝川西高校)
青森県 2校 (弘前東高校、青森商業高校)
東京都 1校 (関東第一高校)
5月：北海道 10校 (駒澤大学附属苫小牧高校、札幌東商業高校、札
幌静修高校、海星学院高校、北海学園札幌高校、
岩見沢緑陵高校、北星学園女子高校、小樽明峰
高校、飛鳥未来高校[札幌キャンパス]、南幌高校)
埼玉県 1校 (埼玉栄高校)
東京都 1校 (東京実業高校)
神奈川県 2校 (武相高校、相洋高校)
6月：北海道 14校 (札幌北斗高校、札幌龍谷学園高校、上ノ国高校、
森高校、旭川実業高校、札幌創成高校、旭川龍谷
高校、当別高校、とわの森三愛高校、倶知安高校、
苫小牧中央高校、札幌光星高校、札幌山の手高
校、北海高校)
青森県 1校 (八戸工業大学第一高校)
千葉県 1校 (敬愛学園高校)
東京都 2校 (昭和第一高校、東海大学菅生高校)

《高校内進路講演会》

- 3月：北海道 4校 (江陵高校、置戸高校、札幌東豊高校、稚内大谷高校)
4月：北海道 2校 (札幌英藍高校、ニセコ高校)
5月：北海道 4校 (札幌英藍高校、函館大学付属柏稜高校、日高高校、
札幌山の手高校)
6月：北海道 6校 (伊達緑丘高校、札幌丘珠高校、徳別高校、阿寒高
校、美幌高校、札幌創成高校)

《高校出張講義》

- 3月：北海道 5校 (札幌南高校(定時)、苫小牧中央高校、室蘭東翔
高校、旭川商業高校、鶴川高校)
5月：北海道 5校 (天塩高校、岩見沢緑陵高校、クラーク記念国際高
校[白石キャンパス]、幌加内高校、札幌英藍高校)
6月：北海道 4校 (札幌南陵高校、苫小牧中央高校、札幌厚別高校、
中標津高校)

《高校訪問》

- 3月：北海道 152校
4月：北海道 69校、埼玉県 1校、東京都 2校、神奈川県 2校
5月：北海道 173校、青森県 27校、埼玉県 4校、千葉県 2校、東京都 2校、神
奈川県 3校
6月：北海道 100校、秋田県 24校、茨城県 1校、埼玉県 1校、東京都 7校、神
奈川県 1校

《オープンキャンパス》

- 3月27日(日) 本学
4月17日(日) 本学(女子カフェ：女子限定)
4月24日(日) 本学
5月29日(日) 本学
6月19日(日) 本学
6月26日(日) 本学

《大学進学資金説明会(保護者対象)》

- 3月27日(日) 本学
4月24日(日) 本学
5月29日(日) 本学
6月19日(日) 本学
6月26日(日) 本学

《北海道情報大学通信教育部 入学説明会：本学独自》

- 3月：3会場(東京(2回)、本学)
4月：2会場(東京、本学)

◆◆ 主な来学者 ◆◆

《広報室来学者》

- 3月30日(水) 留萌千望高校(教員1名)
4月22日(金) 千歳北陽高校(大学見学：生徒30名、教員1名)
5月11日(水) 月形高校(大学見学：生徒38名、教員4名)
5月12日(木) 登別青嶺高校(大学見学：生徒32名、教員1名)
5月12日(木) 沼田中学校(大学見学：生徒9名、教員2名)
5月31日(火) 富良野緑峰高校(大学見学：生徒34名、教員3名)
6月1日(水) 江陵高校(教員1名)
6月2日(木) 白樺学園高校(教員1名)
6月9日(木) 共和高校(大学見学：生徒6名、教員3名)
6月16日(木) 江別高校(大学見学：生徒38名)
6月20日(月) 江別第二中学校(大学見学：生徒28名)
6月22日(水) 札幌あすかぜ高校(大学見学：生徒15名、教員1名)
6月23日(木) 室蘭東翔高校(大学見学：生徒29名、教員2名)
6月23日(木) 浦河高校(大学見学：生徒37名、教員2名)

《国際交流関係来学者》

- 3月13日(日)～16日(水) 中国・大連東軟信息学院からの表敬訪問(3名)
5月13日(金) タイ国・泰日工業大学からの表敬訪問(2名)
6月6日(月) タイ国・ラジャマンガラ工科大学スワンナブーム校からの表敬訪問(33名)



ななかまど 編集隊 vol.66

今回の号はぼりゅーみー

堀越ことこっしーです！
今回はモルフォにて、
大変だった所、良くしたい所など
お洒落なケーキを食べながら語り合いました。

参加メンバー



阿部将秀 P8, 28
佐藤健 応援団
諸岡健吾 P3, 24
庄司汐里 P6-7
堀越麻希 P27, 32
山浦征人 P4-5
鹿野英恵 P12-16, 22



江良周悟
P10-11, カメラマン

堀「今回はななかまどを良くしたい
と思い、大変だったところ、もっとこ
うしたいところを話してもらいま
す！では、テクノロジー専攻のしー
ちゃんからどうぞ！」

庄「私は入学式のページを作りました。
見開きページなのですが、片方は先輩
のを参考にして型を作って、もう一つ
は自分なりにデザインしてみました。
やっぱりデザインって難しいなって思
いましたね。」

堀「テクノロジー専攻だけど本当はグ
ラフィックページやってもらおうか
なって思ってたんだよね。」

堀「はい、次、コロンビア！」

諸「は〜い、諸岡で〜す〜」

山「これ、後でこっしーが聞かなく
いけないんだよ。」

諸「えっ！？カットでお願いします！」

堀「絶対、書かれるからね（笑）」

諸「えーと、、、僕が担当したページは
ですね、建学の理念とフィンランド
ページを行いました。ふっ、、、難しか
ったところはですねー。まだ先輩た
ちがまだ作ったことがない新しいペ
ージだったので、先生にイメージを伝え
てもらって、それをどうやって表現す
るかが難しかったですね。で、まー、
先生からデザインの指摘されなかつ
たので、まー、前回よりもちょっとス
ムーズに自分のデザインを発揮でき
たかなって思いましたー以上で〜す〜」

堀「たくさん話すね〜次は、応援隊の
方お願いします」

佐「ななかまど応援隊になった佐藤で
す。今回編集はしてないのですが、次
回ぜひ一緒に作成したいですね。」

堀「夏休み頑張りたいことを話して
もらおう」

佐「夏休み頑張りたい事ですか！？夏
休みは、バイトしたいです！パソコン
買うためにお金がたくさん欲しい！」

諸「パソコン買ったら編集作業たく
さんできるね！」

阿「えっと、阿部です。保護者の会を
担当しました。時期が夏なので爽やか
なイメージでデザインしてみました。
難しかったところは、文字の配置やレイ

アウトが難しかったですね。まだまだ
先輩たちには及ばないですね。」

先輩陣「そんな事ないって〜」

堀「カメラ諸岡くんに託して次、江良
くんね。」

江「カメラは彼女なんで、、、担当した
ページは体育祭のところと写真提供で
すね。今回が初めて編集したので、勝
手がわからず、試行錯誤しながら編集
しました。」

山「山浦でーす。学長のページを編集
しました（小声）」

堀「聞こえないよっ！！！」

山「今回も面白い感じに編集できたか
なって思っています。人を集めるのと、
会話を文字に起こすのが大変かな。」

堀「今回は新企画学生の叫びと編集後
記を編集しました。好きなデザインと
見せるデザインは違うなって改めて思
いました。」

諸「理想と現実は違いますね。」

堀「うん、色々違うよね。（意味深）
最後にかのちゃんから次回に向けた意
気込みをどうぞ！」

堀「次はもっと均等に役割分担して、
3年生メインに作ってもらおう！」

堀「だね。次はミーティングをちゃん
と開いて担当ページ決めようね。」

諸「僕、自由に文章とかかける編集後
記作りたいです！！！」

山「後継ぎ決まってよかったね。」

堀「次回もお楽しみに〜〜〜〜！」

編集隊募集中

現在もななかまどと一緒に編集してくれる方を募集しております。
学年、学科など何も問いません。興味ある方はぜひ一緒にななかま
どを作りましょう！

興味がある方は、hiu.nanakamado@gmail.com にメールを送るか、
情報メディア学部・川上研究室（228）までお越しください。

不参加メンバー



江森想一郎
P20, 21



加藤優己
P18, 19



山田優美菜
P9, 17



高橋奈緒
P23



編集隊の活動
随時更新中！

Facebook
チェックしてね！

いいねの数ほど頑張れる！